

子ども向け

福祉の耳より

だより

ふくみみ

ナンバー No.6

編集と発行

社会福祉法人 印西市社会福祉協議会

〒270-1325 印西市竹袋614-9 印西市総合福祉センター内

☎0476-42-0294

FAX 0476-42-0338

E-mail info@inzaishakyo.jp

URL http://www.inzaishakyo.jp

高齢化社会

「高齢化社会」って聞いたことありますか？

「高齢者とは」

高齢者というとは何才以上の人を指すと思いますか。

色々な国や地域が加盟している国連の世界保健機関(WHO)の決まりでは、65才以上の人を「高齢者」といいます。その中でも65才から74才までの人を「前期高齢者」、75才から84才までの人を「後期高齢者」、85才以上の人を「超高齢者」と呼んで区分しています。

現在の日本は、特にこの65才以上の人口の割合が、急速に増えてきていることから、高齢化が進んでいるといわれています。

今から約30年後、皆さんが、30才代後半や40才代前半になる頃の2040年には、日本全体でも65才以上の人が、3人に一人になることが予測されています。

このような予測を聞いてみても、皆さんが住んでいる街の中では、若々しい元気な高齢者をいっぱい見かけるし、おじいさん、おばあさんと一緒に住んでいなかったりすると、ピンとこないかも知れませんが、着々と高齢化社会は進行しています。



「私たちの住んでいる印西市でも……」

昨年2013年の印西市の調査では、印西市の高齢化率(65才以上の人の割合)は、17.5%です。市内を見渡すと約6人に一人が65才以上ということになります。中でも、右の表を見てみると、印西市内の地域の中には、約3人に一人が65才以上という地域がたくさんあり、印西市でも高齢化が進んでいる地域も少なくないということが分かります。

(印西市内の高齢化率が高い地域)

地域等	高齢化率	地域等	高齢化率
大廻	48.1	発作・吉高	33.1
武西	41.1	師戸	32.8
小林浅間2丁目	40.0	下井	32.6
笠神	37.6	大森・浅間前・吉田	32.4
岩戸	35.6	別所・木刈4丁目	31.8
行徳・酒直ト杭	35.2	牧の木戸1丁目・松虫	31.3
木刈3丁目	35.0	佐野屋	31.0
中	34.8	滝	30.9
山田	34.6	相嶋・萩埜	30.8
亀成	34.3	船尾	30.7
瀬戸・中根・将監	33.5	荒野	30.6
甚兵衛・松木・中田切本埜小林	33.3	宗甫	30.4
		萩原	30.0

そして、皆さんが20才代前半の大人になった、2025年には、市内でも約4人に一人が65才以上になります。



\*パーセントとは、全体を100とし、そのうちいくつかを示すもの

**「認知症とは」** 健康で長生きすることは、とても素晴らしいことですが、高齢になるにつれて、大きな不安の一つに「認知症」という病気があります。認知症とは、高齢者の誰にでも起こりうる脳の病気です。今、85才以上の4人に一人が認知症の状態にあるともいわれています。

その原因は、脳の細胞が死んで脳全体が縮まってしまうたり、脳の血管が詰まって一部の細胞が死んでしまったり、脳の働きが悪くなったりして起こることが考えられます。

認知症になると、ついさっき聞いたことも、見たことも忘れてしまったりします。また、忘れていたことにも気づかずに、同じことを繰り返して言ったり、聞いたりします。

さらに認知症が進むと、自分のいるところが分からなくなったり、今日が何月何日か、今何時か分からなくなったり、自分の家族や子どもに対して、「誰ですか?」と聞くようなこともあります。



加えて、その人自身の性格、日常の生活環境、周りの人の接し方によって、認知症の人に悪い影響がでてきて、不安な気持ちを持ち続けることで、怒りっぽくなったり、ぼーっとして元気がなくなったり、認知症の具合が悪くなっていくこともあります。

認知症の人の多くは、記憶そのものが欠けているので、自分で認知症であるということが分からずにいることがよくありますが、「何かおかしい」ということは、気づいているので、不安を感じたり、いらだっていることがよくありません。

認知症を含めて、後期高齢者や超高齢者が健康で長生きできるように、医学、心理学、社会学など多くの分野で、調査や研究が行われています。この病気は、完全に治る

ことはないとおきらずに早目にお医者さんに診てもらおうことと、周りの人が、ゆっくりとした気持ちで見守り、手助けをすることが重要です。そうすることによって、認知症の人の不安な気持ちが軽くなって、この病気の進むスピードを抑えることができます。

**「認知症サポーター」って……**



皆さんの中には、印西市の地域包括支援センターの職員の人から、認知症サポーターについて授業を受けたことがあると思いますが、認知症の人を、街中のみんなで支えていこうという国の政策の一つで、「認知症サポーターキャラバン」という事業ができました。

認知症サポーターは、認知症について正しい知識や理解をもって、認知症の人をやさしい目で、ゆっくり見守ることができる「応援者」になることです。

大人や子ども、男の人や女の人など区別なく、特別な知識や技術をもっていなくても、誰でも講習を受けると認知症サポーターになることができます。

**「これから私たちは……」**

今、私たちが生活している中では、認知症の人に限らず手助けが必要な人がたくさんいると思います。皆さん小学生もふくめて地域に住む人たちが、地域を支える一員として、周りの人と協力して、手助けが必要な人に対して自分にできる事を考えて、ボランティア活動や地域を支える活動に参加する機会を増やしていければ、これまで以上に誰もが住みよい街になっていくのではないのでしょうか。



出典:「認知症ってなあに?」全国キャラバンメイト連絡協議会

**「ふくみみ」ってなに?** ・みみたぶのおおきいみみ ・しあわせをはこぶみみ ・しあわせがあらわれているみみ…をいいます。